

教育改善部門平成 26 年度事業報告

相樂 隆正

[1] 平成 26 年 3 月までに、教育改善部門は検討会を多数回開催し、平成 28 年度からの工学部工学科カリキュラム改定を検討するための指針案を独自にまとめ、教育改善への提言をセンター長（黒川教務委員長）に提出した。カリキュラム改正等の主要事項は、平成 26 年度教務委員会がカリキュラム改正に関して議論を開始するにあたって、基礎資料の一部として用いられている。

当部門が提起したポイントのいくつかを以下に列挙する。

1. 教育改善の必要性と目的
2. 教育改善の具体的検討におけるポイントと方向性の提案
 - (1) 教育目標のコンセプト
 - (2) 教員一人の直接教育担当時間の上限
 - (3) 専門教育科目のカリキュラム再構築
 - (4) 工学基礎科目の配置と内容の精査・改善
 - (5) 基礎実験
 - (6) 英語教育
 - (7) 講義の担当
 - (8) 成績評価
 - (9) クォーター制が適切だと考えられる基幹科目
 - (10) 学年制の導入
 - (11) 教員の姿勢、授業の改善
 - (12) 工学部の教員の授業における必須事項として、遺漏なく実行する
 - (13) その他の検討提案事項

[2] クォーター制の平成 28 年度からの導入の是非と、導入する場合の最善の設計について、平成 26 年 6 月から検討会を多数回開催するとともに、メール会議を重ね、検討結果の要点を必要に応じてセンター長（黒川教務委員長）に提出した。

教養教育科目のすべてもクォーター制に同時に移ることを前提とすれば、工学部及び工学研究科として積極対応に特別の支障はなく、相当のメリットも期待できることを、具体的なシミュレーションデータや他大学の検討例資料とともにまとめた。

以上